

「高齢者の下部消化管穿孔・急性汎発性腹膜炎症例における 退院時ADLの調査」について

加古川中央市民病院 消化器外科では、現在、下部消化管穿孔の治療を受けられた患者さんを対象に表題の研究を実施しております。

この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

下部消化管穿孔は緊急手術を要する重篤な疾患で、術後 ADL*の予後は不良です。特に高齢者に対する急性汎発性腹膜炎手術を施行するかしないかの判断は、手術侵襲が大きいことや術後 ADL が低下することから、苦慮することが多いです。高齢者に対する手術加療と術後 ADL に関する報告はありますが、下部消化管穿孔に限った報告はありません。

本研究では高齢者消化管穿孔・急性汎発性穿孔腹膜炎患者の術後ADL及び退院時の歩行の可否を調査します。その結果を治療方針決定や家族への情報提供につなげます。

*ADL は「Activities of Daily Living (日常生活動作)」の略で、食事、入浴、着替え、排泄、移動などの、人が日常生活を送るために最低限必要な基本的な動作を指します

【研究期間】

病院長承認日～2026年3月31日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

2017年1月1日～2024年12月31日までの期間に加古川中央市民病院で下部消化管穿孔の治療を受けられた患者さんの下記情報を診療録より取得いたします。

基本情報： 年齢 性別

疾患情報： 穿孔部位 診断名 術式 手術時間 手術内容

経過情報： 入院時 ADL、退院時 ADL、退院時歩行の可否、入院元／退院先、入院日数、搬入時のバイタルサイン、転帰

【個人情報保護の方法】

研究実施に係る試料・情報を取扱う際は、個人情報とは無関係の番号を付して、研究対象患者識別番号リストを作成して、匿名化を行い秘密保護に十分配慮します。

研究成果を報告する時も個人が識別されないように行います。この研究に参加していただいた患者さんの個人情報については、本研究に関わる全ての研究者が守秘義務を順守するように徹底いたします。個人情報を外部機関へ提供することはありません。患者さんの個人情報は研究責任者が責任をもって保管します。

[試料・情報等の保存・管理責任者]

加古川中央市民病院 消化器外科 責任者氏名：辻泉穂

[データおよび試料提供による利益・不利益]

利益：通常診療の情報を用いており、データをご提供頂いた患者さんの個人には特に利益になるようなことはありません。

不利益：診療録からのデータのみ利用するため特にありません。

[登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて]

本研究において取得したデータ等は、研究期間中は加古川中央市民病院において厳重に保管いたします。研究終了後も少なくとも本研究の終了報告日から5年を経過した日または本研究結果の最終公表日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、当院内のデータベース内のみで管理し、プリントアウトや外部持ち出しが行いません。患者さん及びその家族等から研究参加辞退または同意撤回の申し出があった場合には、その患者さんに関するデータはすみやかに廃棄します。

[研究成果の公表について]

研究成果は学術目的のための論文や学会等で発表されることがあります、その際も個人を特定できる情報は公表いたしません。

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

いつでも可能です。取りやめの申し出を受けた場合、それ以降患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかし、同意取りやめを申し出された時点で、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は廃棄できませんのでご了承願います。

[問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい場合や患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 消化器外科

研究責任者名：辻泉穂

連絡先：079-451-5500